

# まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



127号  
2010年12月13日

ときわ台の景観を守る会  
ときわ台まちづくり委員会  
代表 鈴木博之 近藤洋子  
事務局 島田晴子 tel・fax 3960-3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

## ○ 藤和マンション行政訴訟大詰め

最終口頭弁論は12月8日(水)10時30分522号法廷で行われました。

原告のSさんが最後の意見陳述をし、代理人の森弁護士が最終準備書面の要旨を、それぞれ5分という限られた時間内で陳述しました。

最終準備書面では、この建物が狭隘な周辺道路にしか接していないにも拘らず、不法な規制緩和の適用で、常盤台の景観と環境を害していることを、数々の法令違反の事実を挙げて述べています。

原告陳述では、小さなまちで民事・行政と二つの建築紛争を続けていることの大変さ、業者からの切り崩し、原告適格・建物完成による利益の消失という行政訴訟の二つのハードルの不条理、など、たった5分では言い尽くせない思いを述べました。

これで地裁での口頭弁論は結審し、判決は来年  
2月16日午後1時15分 522号法廷  
となりました。

タカラレーベンと藤和の景観紛争で一つの山を越えた後、一難去ってまた一難の藤和マンション紛争でした。原告の皆さん、お疲れ様でした。様々な形で応援してくださった皆さん、有難うございました。

ここまで頑張れた一つの要因には、この「まちづくりニュース」が続いていることも挙げられます。

行動はできないが支援している印にと、快く引き受けて下さっている人たちのおかげで、毎月一回全戸配布という現在の状況が維持できています。これは私たちの草の根運動であることの証しであり、誇りに思っています。

このニュースを通じて裁判という特にとっつきにくい問題を、どれだけ皆さんに解り易く伝えられたかは疑問ですが、法律専門家ではない私たちとしては精一杯なので、ご寛恕いただきたいと思えます。

何かと「和」を尊ぶ日本人のこと、オカミに物申すだけで“アカ”とか“過激”とか非難されるのには正直がっかりします。健全な批判精神を持ち続けなければ、いつでも戦前の、いや、江戸時代の社会に戻ってしまうことでしょう。

## ロータリーコンサート のお知らせ

時 12月19日(日)  
5時15分～45分  
所 ときわ台駅北口ロータリー  
出演 常盤台バプテスト教会聖歌隊  
曲目 ホワイトクリスマス  
久しく待ちにし 他

恒例のバプテスト教会聖歌隊によるクリスマスキャロルです。  
キャンドルサービスもする予定です。  
風邪をひかぬよう暖かくして、常盤台のまちの一つの文化を楽しみに来て下さい。

主催 ロータリーコンサート  
実行委員会  
雨天中止

## ○ 景観に関するアンケート

景観まちづくり検討会の方から、「ときわ台の景観を考えるためのアンケート」が配られてきました。

原則一戸に一部配布されていますが、表札が二つの家には二部配られています。

アンケートに答えられる住民が複数いる家では、一人しか記入できないのは残念ではないかと言ったところ、何人でも沢山の人の意見を集めたいとのことで、用紙は請求してほしいそうです。

請求先  
澤地喜彦 1-32-2

## 一九七〇年代の写真展から

「ギャラリー服部」で十一月二五日から展示した「一九七〇年代の常盤台街並み写真展」は述べ一五〇人もの来場者でにぎわいました。

五月の「セピア色の写真展」は、昭和二〇年代の、学生会の活動などに重きをおいたものでしたが、今回は、金井一郎さんが写しておいてくれた昭和四九年（一九七四年、約三五年前）の常盤台の住宅街の写真を展示しました。

また、現在の同じ場所を、同じアングルで撮ったカラー写真を参考に並べました。

金井さんはこの街の構成に興味をもつ都市計画家なので、クルドサクヤやロードベイ、並木沿いの道の様子を中心に写していました。

常盤台は、道路や基本的な街の構造は全く変わっていないので、見た人は、なんだ、昔のままじゃないか、結構今もきれいな街じゃないか、と言う感想を持たれたようです。しかし、よく見ると、生垣の激減、街路樹の減少、家並みの細分化などが読み取れたはずです。

金井さんは鷹揚に私たちの会に版權のようなもの一切を任せてくださいましたが、いつか資料館ができた時、大切に展示しておきたいし、将来「郊外住宅地の系譜」（鹿島出版）のような企画が持ち上がったとき、版權は問題になると思われるので、慎重に対処したいと思います。

常盤台小学校でも三年生の授業で貸して欲しいと申し込まれました。写真を見ながら自分たちの住んでいるまちを、十分勉強して欲しいと思います。

## 写真展からわかったこと

### \* 暫定駐輪場が出来たわけ

古い写真には、劣化のためCDに換えたり現像できなかった三枚のネガがありました。公開できなかったその中の一枚には、ときわ台駅舎とその横に止められている沢山の自転車写っていました。一方、現在無料の自転車置き場になっている小学校脇の写真では、片側の道路に鉄の杭が打たれて、車の通行をふさぎ、駐輪場とする準備が着々とできているのが解ります。駅の横は、今は飲食店や宝くじ販売所ができていますが、駅前に自転車が集まるのは当然のことで、鉄道事業者はそのために何らかの対策を取るべきなのです。駅前放置自転車と道路の暫定使用と、この二つの写真は何を物語っているのでしょうか？

### \* 街路樹は全部プラタナスだった

一九七〇年代のプロムナードには、西洋橡の木（セイヨウトチノキ）は一本もなく、すべてプラタナスでした。今は半分以上がトチノキで、別名のマロニエから取った「マロニエ会」というゴルフの会まであるくらいです。今後補充の際は、プラタナスに統一する約束になっていると聞きました。どちらも大きな葉で夏の日差しから私たちを守ってくれています。今年も周辺の住民は落葉の清掃に苦労したことと推察しますが、大事な街路樹をこれからもよろしくお願いします。

## 常盤台公園のはなづくり

夏の花、ダリアがまだ咲いているのでびっくりする人が多いようです。でも、今頃花盛りのはずの皇帝ダリアはつぼみも付けていません。来年の開花を待つことになりそうです。どちらも猛暑の影響でしょう。

先日風と雨で、ほとんど木々は落葉し、わずかな残りが梢にしがみついているだけになりました。

この大量の落葉をプラス思考で有効利用できないものか、と以前から考えていることがあります。

集めた落ち葉をプールのようなところへうずたかく溜めて、子供たちを滑り台から落ち葉の中へドボン！どんなに喜ぶことか、歓声が聞こえてくるようです。その後は堆肥にして希望者に配布するのです。

もちろん問題は多々あります。どうやって落葉を雨に当てずに保管するか。滑り台との接合をどうするか。安全をどう確保するか。などなど。

保育園のかわいい子供たちが遊びまわっているのを見ると、いろいろ夢が膨らみます。でも、この子供達が大人になる頃、常盤台はどんな姿になっていることでしょうか。

定例会一月一五日（土）七時

「ギャラリー服部」にて